

## 御香宮神社

御香宮神社が建てられた正確な時期は不明だが、その修復については平安時代(794-1185)の記録に記されている。もともと御諸神社として知られていたが、863年9月9日に、運命を変える出来事が起こった。純粹で冷たい湧き水が地面から流れ始めた。清和天皇(850-881)がこの奇跡的な出来事を聞いて、神社の名前を「香りの水の神社」という意味の御香宮に変えるよう命じた。湧き水は明治時代(1868-1912)に枯渇したが、1980年代に地域貢献によって回復され、1985年に環境庁より「名水百選」の一つに選ばれた。

1590年代、武将豊臣秀吉(1537-1598)が伏見城築城の際、城の北東の角に神社を移すよう命じた。日本の地質学的には、北東は鬼門や悪魔門として有名で、その不運な方向から邪気をかわすために、神社はしばしば北東に建てられた。1605年、徳川家康(1543-1616)は、それを現在の、元々あった場所に戻した。

鳥羽・伏見の戦い(1868)の間、神社は反乱軍薩摩藩の司令部として使われたが、周辺の町の多くを破壊した紛争の中、何とか生き延びた。本鳥居の東に位置する小さな天満宮の正面には、いまだに戦いで残された弾痕がある。

神社の正門は伏見城が取り壊された時に移築した。現在の神社の建物の多くは、1600年代に色鮮やかな桃山様式で建設された。その本殿の特徴は、1990年代に完全に復元された見事なターコイズブルーの水のモチーフである。そばにある風雨にさらされたお堂は、色褪せてはいるが美しい古画の絵馬堂である。

この神社は、今でも地元で非常に人気があり、伏見の酒造り職人達はここに商売繁盛を祈願している。